



## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年11月8日

上場取引所 東

上場会社名 生化学工業株式会社

コード番号 4548 URL <https://www.seikagaku.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水谷 建

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 針生 敦司 TEL 03-5220-8950

四半期報告書提出予定日 2019年11月14日 配当支払開始予定日 2019年12月3日

四半期決算補足説明資料作成の有無: 有

四半期決算説明会開催の有無: 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	15,555	9.1	2,150	123.1	2,471	△0.2	△10,766	—
2019年3月期第2四半期	14,256	△8.0	963	△56.6	2,475	△48.4	1,912	△46.1

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 △10,958百万円 (—%) 2019年3月期第2四半期 1,682百万円 (△58.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	△190.86	—
2019年3月期第2四半期	33.85	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	68,151	61,359	90.0
2019年3月期	80,238	73,036	91.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 61,359百万円 2019年3月期 73,036百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	13.00	—	13.00	26.00
2020年3月期	—	13.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,600	0.8	1,350	38.1	3,750	31.2	△11,000	—	△194.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

※ 注記事項

(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動): 無

(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用: 有

(注)詳細は、『添付資料』P.7「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	56,814,093株	2019年3月期	56,814,093株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	397,616株	2019年3月期	410,176株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	56,409,157株	2019年3月期2Q	56,499,080株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記予想は、本資料の発表日現在において想定できる経済情勢、市場動向などを前提として作成したものであり、今後様々な要因により、予想と異なる結果となる可能性があります。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は、2019年11月8日より当社ウェブサイトに掲載しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(3) 研究開発活動	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2019年4月1日～2019年9月30日)の売上高は、海外医薬品の好調により医薬品事業が伸長し、前年同期と比べ9.1%増の155億5千5百万円となりました。

営業利益は、増収に加え、研究開発費が減少したことから、123.1%増の21億5千万円となりました。経常利益は、投資有価証券売却益の減少や受取ロイヤリティーの計上がなかったことなどから、0.2%減の24億7千1百万円と前年同期並みになりました。また、医薬品事業における事業環境及び中長期的な業績動向等について精査した結果、本日別途公表しました「特別損失(減損損失)の計上に関するお知らせ」に記載のとおり、減損損失として123億4百万円を特別損失に計上しました。これにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は、107億6千6百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益19億1千2百万円)となりました。

セグメント別の売上概況

## &lt;医薬品事業&gt;

- ・国内医薬品(72億6千万円、前年同期比4.1%増)

関節機能改善剤アルツは、市場全体がほぼ横ばいで推移するなか、医療機関納入本数は微増となりました。当社売上高は第2四半期までに出荷が集中したことから、増加しました。

眼科手術補助剤オペガン類は、シェルガンの順調な推移などによりオペガン類全体で好調を維持し、医療機関納入本数及び市場シェアが伸び、当社売上高も増加しました。

内視鏡用粘膜下注入材ムコアップは、競合品参入の影響を受け、当社売上高は減少しました。

腰椎椎間板ヘルニア治療剤ヘルニコアは、医療機関納入本数が着実に増加しており、当社売上高も増加しました。引き続き、販売提携先とともに適正使用及び安全性確保に向けた医療機関への情報提供活動を推進しつつ段階的な普及に努めていきます。

- ・海外医薬品(44億3千9百万円、同29.5%増)

米国における単回投与の関節機能改善剤ジェル・ワンは、2019年より複数の保険会社で優先償還を獲得したことに加え、競合品からの切り替え施策が奏功したことにより、現地販売本数及び当社売上高が大幅に増加しました。

5回投与の関節機能改善剤スパルツFXは、米国市場において単回投与や3回投与などの少数回投与製品が選好される傾向が継続している影響を受け、現地販売本数が減少しましたが、前倒しの出荷増があったことから、当社売上高は増加しました。

中国向けアルツは、拡販戦略が引き続き奏功しており、現地販売本数は増加しましたが、為替の影響により当社売上高は減少しました。

- ・医薬品原体(5億3千5百万円、同0.0%減)

ヒアルロン酸が増加した一方で、コンドロイチン硫酸が減少し、前年同期並みとなりました。

これらの結果、医薬品事業の売上高は122億3千6百万円(同11.9%増)となりました。

## &lt;LAL事業&gt;

国内での販売が減少したものの、海外子会社のアソシエーツ オブ ケープ コッド インクでの販売活動強化によるエンドトキシン測定用試薬及びグルカン測定体外診断用医薬品の販売増加により、売上高は33億1千9百万円(同0.1%増)と前年同期並みになりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期までの実績及び現時点で見通すことの出来る諸要素を織り込み、2019年5月10日に発表した2020年3月期連結業績予想を以下のとおり修正します。

売上高は、米国における単回投与の関節機能改善剤ジェル・ワンの増加を見込み、前回予想を上回る見通しです。営業利益は、研究開発費が増加する一方、増収に加え、減損処理に伴い減価償却費が減少することから、前回予想を上回る見通しです。経常利益は、受取ロイヤリティー等の増加により上方修正するものの、親会社株主に帰属する当期純利益は、減損処理による特別損失を計上したことから、純損失に転じ、大幅に下方修正します。

なお、研究開発費の予想は70億円（前回予想比2.9%増）、対売上高比率は24.5%となります。

※ 2020年3月期第3四半期以降の連結業績予想の為替レートは、対米ドル105円から変更はありません。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	28,250	400	2,300	2,000	35.46
今回修正予想（B）	28,600	1,350	3,750	△11,000	△194.99
増減額（B－A）	350	950	1,450	△13,000	－
増減率（％）	1.2	237.5	63.0	－	－
（ご参考）前期実績 （2019年3月期）	28,384	977	2,859	2,244	39.76

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において想定できる経済情勢、市場動向などを前提として作成したものであり、今後様々な要因により、予想と異なる結果となる可能性があります。

(3) 研究開発活動

当社グループは、世界の人々の健康で心豊かな生活に貢献するために、専門分野とする糖質科学に特化して、独創的な医薬品等の創製を目指しています。

今後の事業成長の鍵を握る新薬の早期かつ継続的な上市を実現するために、対象物質や重点疾患を絞り込んだ効率的な研究開発活動を推進しています。

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、30億7百万円（対売上高比率19.3%）となりました。研究開発活動の主な進捗状況は、以下のとおりです。

・SI-6603（腰椎椎間板ヘルニア治療剤、開発地域：米国）

2018年2月より米国における第Ⅲ相臨床試験の追加試験を開始し、現在、被験者の組み入れを行っています。本試験では、成功確度を高めるために被験者の組み入れ基準を厳格にしたことや治験施設の立ち上げに時間を要していることから、想定よりも進捗が遅延しています。これを受け、当初の試験計画を見直し、終了時期を2年延長（2022年11月に経過観察終了予定）することとしました。

・SI-613（変形性関節症治療剤、開発地域：日本・米国）

国内第Ⅲ相臨床試験における3つの試験が終了し、その試験結果を考慮のうえ、今期中の承認申請を目指して準備を進めています。

・SI-772（間質性膀胱炎治療剤、開発地域：米国）

米国における第Ⅰ相臨床試験が完了し、2019年11月に第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験を開始しました。本試験では、安全性や忍容性、薬物動態に加え、探索的に有効性を評価します。

SI-722は、当社独自のグリコサミノグリカン修飾技術やドラッグデリバリーシステム(DDS)を活用し、コンドロイチン硫酸にステロイドを結合させた新規の化合物です。膀胱内に注入したSI-722が抗炎症作用を有するステロイドを徐放することで、持続的に頻尿や膀胱痛などの症状改善作用を発揮すると考えられます。SI-722の開発を通じ、間質性膀胱炎治療の新しい選択肢を提供することで、患者の方々の方々の生活の質の向上に貢献することを目指します。

その他の研究開発活動については、重要な変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,987	13,827
受取手形及び売掛金	8,308	8,132
有価証券	7,715	6,246
商品及び製品	3,599	3,467
仕掛品	2,360	2,484
原材料及び貯蔵品	1,595	1,801
その他	1,844	1,814
貸倒引当金	△21	△14
流動資産合計	34,390	37,761
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	23,120	17,635
減価償却累計額	△12,576	△12,925
建物及び構築物（純額）	10,543	4,710
機械装置及び運搬具	23,417	19,092
減価償却累計額	△18,037	△18,761
機械装置及び運搬具（純額）	5,379	331
土地	929	646
リース資産	141	75
減価償却累計額	△70	△71
リース資産（純額）	71	4
建設仮勘定	1,753	475
その他	5,922	5,159
減価償却累計額	△4,944	△5,081
その他（純額）	977	77
有形固定資産合計	19,656	6,244
無形固定資産		
その他	577	470
無形固定資産合計	577	470
投資その他の資産		
投資有価証券	24,114	22,172
退職給付に係る資産	127	151
その他	1,379	1,357
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	25,614	23,674
固定資産合計	45,848	30,389
資産合計	80,238	68,151

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	721	621
短期借入金	300	300
リース債務	33	31
未払金	3,136	2,199
未払法人税等	42	296
賞与引当金	620	624
その他	503	421
流動負債合計	5,357	4,495
固定負債		
リース債務	49	40
繰延税金負債	1,166	1,709
資産除去債務	39	39
その他	589	505
固定負債合計	1,844	2,295
負債合計	7,202	6,791
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,840	3,840
資本剰余金	5,301	5,301
利益剰余金	60,566	49,061
自己株式	△647	△627
株主資本合計	69,060	57,576
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,734	3,733
繰延ヘッジ損益	△3	△4
為替換算調整勘定	183	△13
退職給付に係る調整累計額	61	68
その他の包括利益累計額合計	3,975	3,783
純資産合計	73,036	61,359
負債純資産合計	80,238	68,151

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	14,256	15,555
売上原価	6,518	6,780
売上総利益	7,738	8,775
販売費及び一般管理費		
販売手数料	700	738
人件費	1,069	1,052
賞与引当金繰入額	175	182
退職給付費用	57	52
研究開発費	3,287	3,007
その他	1,483	1,590
販売費及び一般管理費合計	6,774	6,624
営業利益	963	2,150
営業外収益		
受取利息	44	71
受取配当金	183	210
為替差益	25	—
投資有価証券売却益	735	166
受取ロイヤリティー	508	—
その他	29	30
営業外収益合計	1,527	478
営業外費用		
支払利息	11	9
為替差損	—	145
その他	4	2
営業外費用合計	15	157
経常利益	2,475	2,471
特別損失		
減損損失	—	12,304
特別損失合計	—	12,304
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	2,475	△9,833
法人税、住民税及び事業税	546	409
法人税等調整額	16	523
法人税等合計	562	933
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,912	△10,766
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,912	△10,766

（四半期連結包括利益計算書）  
 （第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	1,912	△10,766
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△113	△1
繰延ヘッジ損益	△8	△0
為替換算調整勘定	△151	△196
退職給付に係る調整額	43	6
その他の包括利益合計	△230	△191
四半期包括利益	1,682	△10,958
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,682	△10,958
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、見積実効税率に係る法人税等調整額は、法人税、住民税及び事業税に含まれております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自2018年4月1日 至 2018年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	医薬品	L A L	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,939	3,317	14,256	—	14,256
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	10,939	3,317	14,256	—	14,256
セグメント利益	339	624	963	—	963

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自2019年4月1日 至 2019年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	医薬品	L A L	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,236	3,319	15,555	—	15,555
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	12,236	3,319	15,555	—	15,555
セグメント利益	1,583	566	2,150	—	2,150

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「医薬品」セグメントにおいて、収益性の低下した資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額12,304百万円を減損損失として特別損失に計上しております。